

皆さん、おはようございます。本日、ここに新たな本科学生209名、編入生2名、専攻科学生38名を迎えることができ、教職員一同大きな喜びを感じております。新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。ご家族の皆様も大きな喜びとご期待を感じておられることと思います。

新入生の皆さん、実は私もこの4月1日に着任した新米の校長で、新入生の一人です。皆さんは、これからの人生を歩むにあたっての人間形成、成長の場に本校を選択しました。同じ年齢の大多数が高等学校さらには大学へ進もうとしている中で、高等専門学校を進路に選んだのには、皆さんそれぞれが何らかの高専への期待あるいは確固とした意志があつてのことでしょう。もしかするとある時期において、高等学校に進む多くの友人と違う道を選ぶことに悩んだり、決断に勇気が必要だったかもしれません。しかし、多くと違う道を歩むことは、それイコール個性であり、個性をさらに磨くことにもなります。それでは個性は皆さんの将来にとって重要でしょうか。重要ならその理由はどこにあるのでしょうか。

小説家や役者さん、芸術家などはそれぞれが他の同業者とは違わなければなりませんから、技能やキャラクター、世界観などにおいて独自の個性が必要です。これは皆さんすぐにわかるでしょう。それでは本校が育成しようとしている、工学技術者あるいは研究者において個性はどうでしょうか。

身近な例として電話を考えてみましょう。今では携帯電話が主流ですが、今から30年以上前は固定電話がほとんどでした。街中では公衆電話も多く見かけました。固定電話では、電話機能にせいぜいファックスや留守録音機能ぐらいしかありませんでした。我が国で携帯電話が市場に出てきたのは、今から40年ほど前の1985年ごろですが、それは固定電話を無線化した程度のものでした。その後2000年頃になると、今ではガラケーと呼ばれているタイプが出てきて、携帯電話が広く一般に使われるようになりました。ガラケーと今では馬鹿にして呼ばれていますが、電話・通信機能だけでなくカメラや音楽を聴く機能をもつ当時は画期的なものでした。携帯電話にカメラをつけるという発想は日本で生まれたものですが、携帯電話の発展において、元来の電話以外の機能をつけた最初の画期的な発想と言えます。

新入生の皆さんが生まれた2007年頃にいわゆるスマートフォンが世の中に出始めて、15年経過した今ではほとんどがスマートフォンに置き換わっています。私も使っています。スマートフォンは、電話機というよりは携帯のコンピューターとしての様々な機能を持つコミュニケーションツールになっています。その機能や使い方は決

まっておらず、新たな発想のアプリが次々に登場して、無限の可能性すら感じられるほどです。携帯電話の通信方式も、現在は4Gという規格が当たり前で、新しい5Gが主流になろうとしています。今月になってauはガラケー向けの3Gのサービスを取りやめました。他の通信会社も追随して近々3Gを終了する予定です。3Gが登場したのは2000年頃です。このように、以前は遠方の人同士が会話できる機能しかなかった電話が、わずか40年くらいで無限に可能性が広がる様々な機能を有する携帯ツールに変化・発展してきました。

自動車についてみても、内燃機関を動力とする高速移動のための装置でしたが、その機能は変えないまでも、動力源を化石燃料から電力や水素に変換しようとする動きが、わずかここ1～2年で大きく加速しています。その背景は皆さんよくご存知でしょう。現状の発電所構成の中で電気自動車や燃料電池車への変換が、温室効果ガスの発生抑制につながるかどうかは議論の余地がありますが、将来の技術としてその方向に進むのは必須でしょう。さらに自動運転の技術も急速に発展してきており、社会における自動車の役割や使われ方がこの先大きく変わろうとしています。

このように既存の科学技術も10年あるいは20年といった短い期間で単に性能が良くなるだけでなく、新しい発想で持って機能や使われ方が大きく変化していきます。このほかにも、従来にはなかった全く新しい機能を有する製品が世の中に登場して、私たちの生活を変えると共に、新しいビジネスが次々と生み出されています。普段の生活では見えませんが、もちろんこれらの新しい技術を支えあるいは可能にしている材料工学の発展があつてのことであり、新たな機能を有する物質の開発や機能改善が進められています。

新入生の皆さんは、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物・応用化学工学、材料システム工学をそれぞれ専門とする5学科に所属して、これから勉強を始めていきますが、先に見た自動車のように、従来は内燃機関を動力とする機械工学の一つの成果であった製品ですが、今では電気電子工学、材料工学、情報工学などの他の工学分野の成果を様々にとり入れることで発展しています。

何を申したいかという、皆さんがこれから学ぼうとする専門分野の位置付けや役割は常に変化しており、今現在と、皆さんが実社会に出て専門技術者として活躍する数年後、さらにはそのさきの将来では、大きく変わっていく可能性が高いということです。

それでは、これから皆さんが学ぶことは、将来古くなってしまい、学ぶ価値がないのでしょうか。それは違います。人類は長い時間をかけて科学技術を発展させました。皆さんが学ぶのはそれらの成果の体系的な基盤であり、原理原則です。それらの多くは時代が変わっても価値は変わりません。変わるはその使われ方です。これからの科学技術の発展もここで学ぶ多くの普遍的な原理原則の上でなされるわけです。

話を個性に戻しましょう。

私たち教員は、1クラス40人を相手に授業を行います。そこでは、担当の先生は皆さんに等しく、様々な知識や知見を分け与えて、それに対する理解を求めます。それでは、授業における教育とは皆さんを同じように育てていくことが目標なのでしょうか。そして、皆さんが卒業する時は全員が等しい専門知識をもって、高度なことを同じように考えることができる、専門的な技術者を育成することがゴールなのでしょうか。例はよくないですが、工場から質が揃った洗練された工業製品を大量に生産することに似ています。果たしてそれが正解で、皆さんが卒業の時に目指す目標でしょうか。

先ほどから話題にしていますように、これからの未来の産業・工業の発展に求められるのは、新しい発想とそれを具体的に実現するための行動力、さらには異分野の専門家と意見を交わし協力する組織力、コミュニケーション力です。そのためには、同じ知識を持ち、同じように考える人が多くいる必要はありません。それぞれ違う発想や特質を有する技術者がいてこそ、すなわちそれぞれが違う発想を持つ個性豊かな高度な専門技術者がこれからの社会の発展に大きく求められています。

でも、学校ではどこでも授業で皆さんを平等に扱い、等しく知識を伝授します。

あれ、それでは学校では将来求められるような個性的な専門技術者を育成できないのかな〜と、今疑問や不安を感じているかもしれません。でもそれも違います。

先ほど申したことを思い出してもらいたのですが、皆さんがまず学ぶのは人類が長い時間をかけて培ってきた科学技術や人間としての文化的素養の体系的な基盤である原理原則であって、時代と共にかわるのはそれらの原理原則の使われ方です。個性が問われているのは、使われ方への独自の新しい発想、アイデアの部分です。それでは、そのような独自の発想はどこから出てくるのでしょうか。

皆さんもある時に突然に発想が生まれた経験があると思いますが、発想とは様々な

知識を集約して出てくる想像イマジネーションです。そのようなイマジネーションは、知識をもとに自らで考える、知識を使ってみる、応用してみる、ということを重ねる・経験することで育まれていきます。これは、なかなか授業だけではできません。思考や経験を重ねることで、皆さん独自の視点が育成されていき、自分が得意なこととなって個性になっていきます。ですので、是非とも皆さんにはいろいろな事を知る、知識を増やすだけの学習に終わるのでなく、それらをいろいろな場面で自分で使って考えて応用してみてください。

高専では、ロボコンなどのコンテストや自分でものを作ってみる機会が多くあります。そのような機会を積極的に活用して、自分が得た知識を使えるようにしてください。そのような経験によって、それぞれが独自の視点や発想を抱くことができるようになり、自分が得意なこと個性が生まれてきます。さらに自分への自信も強くなっていきます。それは時代が変わっても、その時々に必要な新たな発想を生む原点となります。

今日ここでは個性の重要性を皆さんに強調する話をいたしましたが、一つ注意してもらいたいのは、個性とは結果として生まれる他人と違う性格・特性です。意識して他人と違うこと、反発し続けることが個性を生むわけではありません。いいでしょうか。それは単なるへそ曲がりです。他人と違うことをことさら意識して、あるいは他人に反発することを行動原理にすることは、他人に依存していることに他なりません。他人と同調することと精神的には変わらず、そこから個性や自信は生まれてきません。

すなわち、個性や自信は、素直に自分と向き合って物事を考える、知識を使ってみるという内面から湧き出てくるものです。

本科生は16歳から20歳にかけての5年間、人格を形成して大人になっていく、人生の中で最も重要な時期を本校で過ごします。この4月に民法が改正されて、成人年齢が18歳に引き下げられました。皆さんは在学中に成人となるわけです。

成人（大人）とは社会の中で責任を持って活躍することができる人格の持ち主の事をさします。社会に対して果たす責任があるという事です。私の個人的な考えですが、大人とは、自分がやるべきことと自分の好きなことが一致している人のことであると常日頃考えています。やるべきこととは職業や職務といったことになります。自分の好きなことを職業にできたら、さぞかしいいでしょうが、才能に恵まれた一握りの人は可能かもしれませんが、皆が皆そういうわけには行きません。

多分、多くは自分のやるべきことが先にあって、それを自分の好きなことに変えていく、というプロセスをたどります。自分がやるべきこと=使命を何もないところから見つけるのはなかなか難しいですね。ですが、自分が得意なこと、すなわち個性がはっきりしていると、それは好きになる可能性が高いので、一般人にとって最もハッピーなやり方は、まず自分に得意な事を作って、それで自分のやるべきことを決めて、さらにそれを自分の好きなことにする、ということになります。

是非とも社会に出る前に、この久留米高専において自分に得意なことを一つでも多く身につけて個性と自信を育み、未来社会で大いに活躍できる人になっていただきたいと強く願っています。

少し長くなりましたが、新入生の皆さんを本校に迎えるにあたっての告辞といたします。

令和4年4月5日

久留米工業高等専門学校 校長 松村 晶